

令和5年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

北九州市立 門司中央 小学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和5年6～7月に、5年生を対象として、「体力・運動能力」と「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。また、運動習慣については、学校のみでなく、家庭で運動を一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立に向けた取組の充実をお願いします。

※ 本調査により測定できるのは、体力・運動能力の特定の一部です。

1. 調査の目的

- (1) 国が全国的な子供の体力の状況を把握・分析することにより、子供の体力の向上にかかる施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会が自らの子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、子供の体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

2. 調査内容

(1) 実技に関する調査

[8種目] 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

(2) 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

※ 本校の5年生は単学級ですので、個人が特定されないことがないよう、公表の方法について配慮しています。

3. 体力・運動能力に関する調査結果の概要

全国・本市の実技調査の結果

<男子>

本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	16.13	19.00	33.98	40.60	46.92	9.48	151.13	20.52	52.59
本市	16.30	19.17	34.49	40.75	49.29	9.48	152.47	21.39	53.38

<女子>

本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	16.01	18.05	38.45	38.73	36.80	9.71	144.29	13.22	54.28
本市	16.35	18.36	38.88	38.78	39.26	9.70	145.97	13.51	55.18

4. 運動習慣や生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析

- 男女ともに、体育科の時間のめあてを意識し、目的をもって取り組もうとする傾向にある。今後とも、児童が主体的に学習に取り組めるよう様々な手だてを講じていきたい。
- 「ICTを活用することで、できた、わかったことがある」の肯定的回答が、全国平均を上回っていた。ICTの活用により、動きを可視化することで、児童の「できる喜び」を実感できる体育科の学習を目指したい。
- 「運動が好き」「運動は大切」の肯定的回答が、全国平均を下回っていた。体育科の学習だけでなく、「生涯体育」の視点からも、運動への興味・関心を高める取組を進めていきたい。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科(授業)に関する取組(全校で・学年で・学級で)

体育科では、45分間のうち、約30分間は運動する時間を確保するようにしている。『すきっチャプログラム』を活用し、個に応じた学習意欲の喚起や学習展開の工夫など、授業改善に取り組む。ICT機器で児童の動きを可視化し、自分の動きを振り返られるようにすることで、体力や技量の向上を実感できるようになった。思考力をより高めるために、学習カードやICTを効果的に活用する授業改善を図りたい。

② 運動習慣等に関する取組(1校1取組)

「生涯体育」の視点から、児童の運動に対する関心を高めるために、継続的に運動に親しめる環境づくりを目指したい。運動に関する関心・意欲をより高めるため、体育用具の積極的な貸出や、「幅跳び週間」「ハードル週間」「ボール投げ週間」など、各運動領域の学習期間中における運動場の開放を計画的に実施したい。また、縦割り活動での縄跳びや大縄の取組、持久走記録会に向けた合同練習の企画など、児童相互で運動することの楽しさを味わったり、達成感を感じたりすることのできる機会を設けたい。